

新潟県立大学入試ミス再発防止検討委員会
報告書

令和8年2月24日

新潟県立大学入試ミス再発防止検討委員会

目次

はじめに	1
I. 本事案の概要	2
II. 入試ミスの検証	3
III. 再発防止策	7
おわりに	8
関係資料	8

はじめに

令和7年2月9日及び2月22日に実施した本学国際経済学部令和7年度一般選抜A日程及びB日程個別学力検査（英語）に入試ミス（採点ミス）があることが判明し、改めて解答の確認及び再採点のうえ合否判定を行った結果、当初は不合格となっていた当該入試受験者のうち9名（A日程1名、B日程8名）を新たに合格者とするという重大な事案（以下「本事案」という。）を引き起こした。

令和7年8月26日に公表した「令和7年度一般選抜（A日程及びB日程）における入試ミスについて（お詫び）」（関連資料①）で報告したように、本学としてこのような重大なミスが発生したことを真摯に受け止め、今後このようなミスが生じないよう再発防止に取り組むこととし、そのために公表同日8月26日付けで「新潟県立大学入試ミス再発防止検討委員会」（以下「再発防止検討委員会」という。）を設置した（関連資料②：当該委員会要項）。

「再発防止検討委員会」では、本事案が生じた直接的原因だけでなく、本学の入試問題作成・点検・採点作業の実施体制全体を検証するとともに、再発防止のための対策案について検討した。本報告書は、その結果をまとめたものである。

I. 本事案の概要

1. 入試ミスの内容

以下の択一式より解答を求める試験問題について、正答を誤答として採点した。

- ・ 令和7年度一般選抜試験A日程（国際経済学部）英語の試験問題
大問1の中の小問題（5）
正答はCであるところ、誤答として採点
- ・ 令和7年度一般選抜試験B日程（国際経済学部）英語の試験問題
大問1の中の小問題（3）
正答はAであるところ、誤答として採点

※関連資料③：採点ミスのあった問題の抜粋

2. 発覚の経緯

本学では毎年8月に同年に実施した一般選抜試験の問題、解答及び解答例、出題の意図を大学ウェブサイトに公表しており、今年度も8月1日に公表したところ、8月7日に大学入試問題を扱う出版社から、本学が公表した試験問題の一部の解答に誤りがあるのではないかという問い合わせがあった。

これを受け点検を行った結果、令和7年2月9日に実施した令和7年度国際経済学部の一般選抜試験A日程個別学力検査（以下「A日程入試」という）（英語）及び同年2月22日に実施した同学部一般選抜試験B日程個別学力検査（以下「B日程入試」という）（英語）において、それぞれ1件ずつ、正答を誤答として採点を行った採点ミスがあったことが判明した。

3. 再採点等、その後の対応

採点ミスが判明したことから、改めて解答の確認を行い、正しい解答によって再採点のうえ合否判定を行った。その結果、当初不合格となっていた受験者のうち9名（A日程1名、B日程8名）を新たな合格者とした。なお、当初に合格と判定した者については、判定結果を変更しないこととした。新たな合格者となった受験者については、お詫びとともに、合格通知書を送付した。

本件入試ミスについては、文科省及び新潟県に速やかに報告し、8月26日に、大学ウェブサイトにおいて入試ミスについて公表するとともに記者会見を行った。

4. 新たな合格者への対応

新たな合格者となった受験生への合格通知書送付後、当該受験生全員への対応に着手した。まず受験生本人へ連絡を取り謝罪を行った。連絡後に本学への入学を希望した受験生には、転・編入学に係る説明を行い、教学関係をはじめとする修学面での支援を10月の授業開始前から実施した上で、10月1日からの入学とし、入学後も必要な学修サポートを行っている。令和7年4月より本学に入学していれば不要であった支出費用等に係る補償については保護者との面談を行った。また、本学への転・編入学に関心を示しながらも既に新たな生活を始めている受験生については、本人及びその保護者に丁寧に転・編入学に係る説明を重ねた上で、入学を希望しないとの意思表示をした受験生には、改めて謝罪するとともに補償に係る説明を行った。こうした説明・面談を経て、最終的に新たな合格者9名全員への謝罪及び補償に至った。

II. 入試ミスの検証

1. 検証方法

関係文書等の調査を行うとともに、関係者に直接インタビュー形式で聴き取り調査を行った。

インタビュー対象者

当該英語問題の学力検査問題作成主任委員（兼）採点委員
当該英語問題の学力検査問題作成副主任委員（兼）採点委員
その他の当該英語問題の学力検査問題作成委員（兼）採点委員3名
当時の入試委員（兼）採点委員
当該英語問題の点検委員
前年度英語問題の学力検査問題作成主任委員
当該学部学科の当時の学部長
同学科長
同学部学科の現学部長
同現学科長
当時の入試委員長
入試課職員3名

2. 事実関係

1) 入試ミスの基本的事実とA日程入試とB日程入試両日で同じミスが起きた理由

入試ミスが発生した年度における国際経済学部英語入試問題については、A日程入試とB日程入試の問題を一つの学力検査問題作成委員（以下「出題委員」という）チームが同時進行で作成した。本学においては、出題委員はチームで作業を行い、さらに出題委員とは別メンバーの点検委員が作成段階から複数回点検を実施し、その過程において協議や必要な修正を繰り返しながら問題完成を目指す。当該年度においては問題作成過程の終盤でも修正が行われた。それはA日程入試とB日程入試の両方において選択問題の選択肢の順番を入れ替えるもので、正当な理由があり、修正自体に問題はなかった。しかしながら、その後の調査によって、A日程入試とB日程入試のいずれにおいても、その最後の修正を行う前のデータに基づいた解答を（以下に記すミスにより）採点時に用いたために、今回の入試ミスが発生したことが判明した。当該英語問題においてはA日程入試及びB日程入試のデータが一括管理されていたため、同じミスが両日程で生じる結果となった。

2) 入試ミスの直接的原因

調査の結果、今回のミスは、以下のように発生したことが分かった。問題と解答及び解答例の点検は、基本的にはデータをプリントアウトした紙ベースで行っている。（今回入試ミスが生じた問題は記号で解答する択一式であり、以下、当該英語問題の解答については単に「解答」とする。）当該英語問題の学力検査問題作成主任委員（以下「出題主任」という）が最終原稿を入試課に提出した際にも、問題と解答をプリントアウトし、データは入試課指定のUSBメモリに保存し、その両方を同時に入試課に提出した。その際、プリントアウトされた紙の問題原稿及び解答について、いずれも最後の修正が行われた正しいものであることを出題主任と入試課で確認している。その後の調査・検証においても、その時点でプリントアウトされた解答の内容は正しいものであったことが判明している。

一方、USBメモリに保存された解答データの内容については、提出時もその後も内容の確認が行われなかった。出題主任は、入試課に提出するUSBメモリに保存された解答データを自分のUSBメモリにも保管し、採点時にはそのデータを用いて採点を行った。そして、入試ミス発覚後の調査によって、出題主任が保存していた解答データと入試課に提出されたUSBメモリに保存された解答データは同一のものであるが、それらはいずれも最終段階の修正を行う前の解答であり、それを用いて採点を行ったために今回の採点ミスが生じたことが判明した。（USBメモリに保存されていた問題は正しいものであった。）すなわち、出題主任がデータをプリントアウトする時点では「正しい解答」であったものが、その直後に入試課に提出するUSBメモリに保存する時点で「修正前の解答」の方を保存してしまい、さらにそれと同一のデータを出題主任が自身のUSBメモリにも保存し、「修正前の解答」を用いて採点を行ったために入試ミスが発生したことが分かった。

3) USB メモリに「修正前の解答」が保存されてしまった原因について

出題主任は、問題と解答の両方について最後の修正を行った後、その内容の正しさを確認したうえでプリントアウトしている。上記のように、その時点でプリントアウトされた解答は正しいものであった。それにも拘わらず、その直後に「修正前の解答」のデータを入試課に提出する USB メモリに保存してしまったことになる。その原因について出題主任自身は明確に記憶しておらず、保存する際に過誤が生じたと結論せざるを得ない。

4) 入試当日までの点検

上記のようなデータ管理におけるミスにその後の点検でなぜ気付くことができなかつたのかについて検証した。問題については、入試課に提出された USB メモリに保存されたデータをもとに印刷会社で問題冊子の形式に印刷されるが、解答及び解答例については印刷会社において印刷されることはない。そのため、問題冊子印刷後、当該英語問題についても問題冊子と解答の点検作業は繰り返し行われたものの、その際には問題原稿の最終提出時にプリントアウトされた「正しい解答」の表を用いて点検を行ったため、USB メモリ内データにおける誤りを発見することができなかった。

5) 採点時における点検

今回、採点時において出題主任が自分の USB メモリに保存していた「修正前の解答」データを用いて採点したため、採点ミスが発生した。もし、採点を始める前に採点委員によりその場であらためて解答の正しさについて注意深い再点検が行われていたら、採点ミスは未然に防げたはずであるが、調査により、A 日程入試においても B 日程入試においても採点ミスが生じた問題については採点前の再点検が不十分であったことが分かった。

本学では、採点前に解答及び解答例の確認を行い、採点の方法や基準等について協議をしてから採点を行う。当該英語問題の採点においても採点前に協議が行われたが、採点時に出題主任が用意した解答データについては、それまでに何度も点検した「正しい」ものである（すなわちプリントアウトして入試課に提出した解答データと同一のものである）という思い込みがあり、その場で徹底した再点検を行うことがなかった。

6) 誤った解答例が大学 Web ページに公表された理由について

本学では例年 8 月に前年度中に行われた一般選抜試験の問題、解答及び解答例、出題の意図を大学 Web ページで公表している。それらのデータについては公表前に出題主任が再度点検を行うことになっている。当該英語問題についても出題主任が解答の点検を行ったが、そ

のときにはプリントアウトされた解答ではなく、入試課の USB メモリに保存されていたデータを公表データとして用いて、それを出题主任のところに保存されていた解答データ（どちらも事後に「修正前の解答」であると判明したもの）で照合したため、誤りに気が付くことができず、結果として誤った解答が公表されることとなった。

3. 検証結果

再発防止検討委員会は、今回の入試ミスが生じた直接的な原因は以下の2つの点にあると結論する：

- ① 作業上の過誤によって誤ったデータを保存した。
- ② 採点時における解答例の再点検が不十分であった。

また、重大な責務を伴う入試業務においては、ヒューマンエラーが起りにくい環境や仕組みを整え、そして例え何らかのミスや過誤が生じて、それに早く気づき直すための何重もの対応策や体制を備えておくことが求められる。今回のデータ保存における過誤については、発生後にそれに気付くための仕組みや機会が何度かあったにもかかわらず、それらを活かすことが出来なかった。これは、入試における管理・点検体制及び入試業務における作業・確認の徹底が十分でなかったことによるものと考えられる。とくに、本事案に関連しては、以下の2つの点において直ちに解決すべき課題が認められる：

1) 解答及び解答例の管理体制と点検体制

解答及び解答例についても点検が繰り返し行われている。しかしながら、今回の事例において実際に点検が繰り返し行われたのは紙版の解答例だけであり、USB メモリに保存されたデータの点検体制は不十分であった。また、実際に点検した紙版の解答例を採点時に用いていけばミスは起こらなかった。解答及び解答例のデータについては紙版とデータ両方の管理及び点検体制の見直しが必須である。

2) 採点時の作業工程、要確認事項の徹底

本学では一つひとつの入試業務に関して必要な作業工程と要確認事項をチェックリスト表にまとめ、それに基づき入試作業を実施しているが、当該入試問題の採点委員においては、その内容が十分に共有されていなかったことも分かった。入試業務に係る作業工程と要確認事項については、作業内容だけでなく、それぞれの重要性や注意点についても担当者間でしっかり共有していくプロセスが必要であるが、今回の事例においてはその点の認識が不十分であったと考えられる。入試業務における作業及び確認のプロセスをより意識的に行うための取り組みを強化していくことが求められる。

Ⅲ. 再発防止策

上記の検証結果を踏まえ、再発防止検討委員会は、以下のような入試ミス再発防止策を提言する。

今年度以降の一般選抜試験の採点において以下の点の再発防止策を実行すること。

1.

- (1) 採点時には入試課が管理している（実際に点検を行った）解答例を用いること。
- (2) 採点委員は採点前に問題を解いたうえで解答及び解答例の点検を行うことを徹底すること。
- (3) 採点時の作業工程及び要確認事項に関する既存のチェックリストを見直し、より丁寧にマニュアル化したうえで、今年度入試を実施するまでに担当者で共有・徹底すること。

※本報告書に、既存のチェックリストをもとに再発防止検討委員会が作成した採点マニュアル案を添付する（関連資料④）。内容は、既存のチェックリストに加えて、採点の際に入試課から問題冊子だけでなく解答（例）を受け取ること、解答（例）の適切さを「その場であらためて解答のうえ」確認すること、の2点について明記するとともに、各チェック項目をより分かりやすく編集し直している。

2.

さらに、採点以前の入試業務についても、入試問題作成段階から講ずべき防止策として以下の点を整備し、実施すること。

- (1) 採点時だけでなくその他の入試業務に係る作業工程及び要確認事項についてもあらためてその内容を見直し、丁寧なマニュアルを整備すること。
- (2) 各学部においては、今回の入試ミスの重大さをあらためて反省しつつ、入試業務の責務の重大さと（採点マニュアルを含む）上記マニュアルの内容の共有を徹底するための研修を実施すること。

（注）なお、以下の対策は既に実施に移されている。

1. 解答例データの管理・保存を入試課に一元化し、点検の際にはプリントアウトしたものだけでなく、USBメモリ内のデータの確認も行う。
2. 総合型選抜・学校推薦型選抜・特別選抜入試の採点においても解答例の事前点検を徹底する。

おわりに

今回、本学で発生した入試ミスにおいては、9名の受験生を誤って一度不合格と判定し、あらためて合格者とするという、重大な事案を引き起こした。我々大学は受験生に与えた影響の重大さ、深刻さにあらためて真摯に向き合わなければならない。本報告書に記したように、きっかけはヒューマンエラーであったとしても、ヒューマンエラーが起こりにくい環境や方策を整備し、そして例え何らかのミスが生じても、それに早く気づき正すための何重もの対応策や体制を備えておくことは、我々大学の責務である。その責務を深く自覚し、本報告書の内容を踏まえて大学全体でさらに協議を重ね、関係部局間で協力しながら、入試業務の環境と体制の改善に向けての取り組みを継続することが求められる。

関係資料

- ① 令和7年度一般選抜（A日程及びB日程）における入試ミスについて（お詫び）
- ② 新潟県立大学入試ミス再発防止検討委員会設置要項
- ③ 採点ミスのあった問題の抜粋
- ④ 採点における作業工程及び要確認事項

入試ミス再発防止検討委員会 委員名簿

職名等		氏名	備考
学長が指名する副学長 (第1号委員)	副学長 (学務・国際担当)	柳町 裕子	
学長が指名する教員 (第2号委員)	国際地域学部長	Brown, Howard Gordon	
学長が指名する教員 (第2号委員)	人間生活学部長	曾根 英行	
学長が指名する教員 (第2号委員)	国際経済学部教授	秋山 太郎	
その他学長が必要と認めた者 (第3号委員)	副理事・事務局長	大島 正也	
その他学長が必要と認めた者 (第3号委員)	事務局次長、 総務財務部長	大野 秀之	

令和7年度一般選抜（A日程及びB日程）における入試ミスについて（お詫び）

令和7年8月26日
新潟県立大学

本学にて令和7年2月9日及び2月22日に実施をいたしました新潟県立大学国際経済学部の令和7年度一般選抜A日程及びB日程の個別学力検査（英語）において、入試ミス（採点ミス）が判明いたしました。

改めて解答の確認及び再採点のうえ合否判定を行い、当初は不合格となっていた当該受験者のうち9名（A日程1名、B日程8名）を新たに合格者といたしました。

厳正、確実であるべき入学試験においてこのような事態となり、受験者及び関係者の皆様に多大なご心配及びご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

1. 本件判明の経緯

令和7年度一般選抜試験問題・解答例・出題の意図を本学ウェブサイトに公表したところ、大学入試問題を扱う出版社から本学が公表した当該問題の解答について誤りではないかという問い合わせがありました。学内関係者で改めて点検した結果、以下の試験問題について、正答を誤答として採点していたことが判明しました。

- ① 令和7年度一般選抜試験A日程（国際経済学部）英語の試験問題
 - ・大問1の中の小問題（5）
 - 正答はCであるところ、誤答として採点
- ② 令和7年度一般選抜試験B日程（国際経済学部）英語の試験問題
 - ・大問1の中の小問題（3）
 - 正答はAであるところ、誤答として採点

2. 本件への対応経過

改めて解答の確認及び再採点のうえ合否判定を行いました（当初に合格と判定した者については、判定結果を変更しないことといたしました。）。その結果、当初は不合格となっていた当該受験者のうち9名（A日程1名、B日程8名）を新たに合格者といたしました。

新たな合格者となった受験者については、お詫びとともに、合格通知書をお送りしました。

3. 新たな合格者への今後の対応

新たに合格された受験者が、本学への入学を希望される場合は、今年4月の入学者と同時期に卒業できるよう、新潟県立大学として最大限の配慮と履修支援を行います。

また、4月に入学していれば負担する必要のなかった費用等について、当該受験者及びご家族と相談の上、社会通念上相当の補償を行うこととします。

4. ミス発生の原因

採点時における最終的な解答例の確認が不十分であったため、ミスが発生しました。

5. 再発防止に向けた今後の取組

今回このような重大なミスが発生したことを真摯に受け止め、今後、再発防止検討委員会（仮称）を設置し、再発防止に向けて万全な取り組みを行ってまいります。

本件に関するお問い合わせ先
新潟県立大学入試課
電話 025-270-1311

本件に関する新潟県立大学長コメント

このたび、本学において実施いたしました、令和7年度一般選抜（A日程及びB日程）において入試ミスがあったことが明らかになりました。

このことにより、新たに9名を合格者といたしました。当該合格者の進路に極めて大きな影響を及ぼす事態を起こしたことにより、ご本人やご家族をはじめ関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしたことににつきまして、深く反省するとともに、本件の重大性を厳粛に受け止め、新潟県立大学を代表して心よりお詫びを申し上げます。

本学といたしましては、これまで入試業務に細心の注意を払い取り組んで参りましたが、今回このような重大なミスが発生したことを真摯に受け止め、今後このようなミスが生じないよう、再発防止に取り組み、信頼回復に努めてまいります。

令和7年8月26日
新潟県立大学長 若杉 隆平

新潟県立大学入試ミス再発防止検討委員会設置要項

(令和7年8月26日制定)

(趣旨)

第1条 新潟県立大学（以下「本学」という。）に、新潟県立大学入試ミスに係る検証及び再発防止検討委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、本学の令和7年度一般選抜（A日程及びB日程）で起こった入試ミスについて、その原因等を検証するとともに、再発防止のための対策を検討の上、報告書を取りまとめることを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員で組織する。

- (1) 学長が指名する副学長
- (2) 学長が指名する教員
- (3) その他学長が必要と認めた者

(委員以外の出席)

第4条 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を求めることができる。

(事務)

第5条 委員会の事務は、事務局教務学生支援部入試課において処理する。

(雑則)

第6条 この要項に定めるもののほか、委員会の運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要項は、令和7年8月26日から施行する。

採点ミスがあった問題の抜粋

令和7年度入学者一般選抜入学試験問題（A日程 国際経済学部）英語

From choices A to D, choose the most appropriate answer to the questions below.

- (5) In paragraph 5, what does “design products for the dump” imply?
- A. Manufacturers make products that can easily be recycled.
 - B. Manufacturers make products that can last a long time.
 - C. Manufacturers make products that will be replaced quickly.
 - D. Manufacturers make products using recycled materials.

正答は「C」であるところ、誤答として採点

令和7年度入学者一般選抜入学試験問題（B日程 国際経済学部）英語

From choices A to D, choose the most appropriate answer to the questions below.

- (3) In paragraph 3, which of the following is NOT mentioned as necessary for a government in order to distribute cash effectively during a crisis?
- A. ability to easily identify and make support systems for government budgets
 - B. ability to find and help those in need of support
 - C. having both an identification system and information about individual income levels
 - D. having more than one way to distribute cash to individuals in need

正答は「A」であるところ、誤答として採点

採点について(案)

採点の流れ

- 1 採点委員は、入試課から答案冊子、問題冊子、予め出題委員により提出された解答（例）及び作業項目のチェックシートを受け取る。
- 2 採点は、指定された採点場所で採点する。
- 3 採点中、答案冊子は指定された採点場所から持ち出しをしない。
- 4 採点が複数日にかかる場合には、各日の採点終了時に答案冊子及び採点に関わる書類を入試課に預け、採点場所を施錠する。
- 5 採点委員は、採点前に採点場所において解答例を点検し、採点のために必要な協議を行う。
- 6 採点にあたっては、一つの問題に対して異なる採点委員が複数回採点する。
- 7 採点結果(点数)は所定の箇所に記載する。
- 8 採点委員は、担当する箇所の採点が終了したときに答案冊子の所定の欄に署名する。
- 9 採点結果の集計は異なる採点委員が複数回行う。
- 10 採点結果の入力は指定された入力用 PC を用いる。
- 11 採点結果を入力する際は採点結果を複数回確認し、確認後にデータを入試課提出用 USB メモリに保存する。
- 12 採点結果を保存した入試課提出用 USB メモリ及び答案冊子を入試課に提出する。

確認内容

採点委員は、下記の各項目を確認すること

(1) 採点前

- ① 採点の作業にふさわしい場所、環境であるか（外部から見えたり声がもれたりしていないか、関係者以外の入室は制限しているか等）。
- ② 問題全体の満点と個々の問題の配点。
- ③ 解答（例）の適切さ（その場であらためて解答のうえ確認すること）
- ④ 採点方法と採点基準の適切さ。

(2) 採点途中、採点後

- ① 採点途中あるいは採点後に入試課に答案冊子を預ける際には、答案の綴り順及び数を確認すること。